

### 第3回 アクティブラーニング研修会実施報告

日 時 平成28年11月29日(火)

場 所 多治見高校 桔梗会館

講 師 京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科 溝上慎一 教授

演 題 「なぜ今高大接続とアクティブラーニングか ―全国の実践も交えて―」

#### 講義内容

##### 1 なぜアクティブラーニング型授業の改革か

###### (1) アクティブラーニングの定義

一方的な知識伝達型の講義を聞くという受動的学習を乗り越える意味でのあらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。

###### (2) アクティブラーニングの必要性

学校から仕事・社会へのトランジション(移行)課題の解決のため。これからの時代は指示されたことだけをやっている人は苦勞する。これまでも大学に入学したらゼミに所属して、討論・発表などを行う場はあった。しかし、大学のゼミは、専門分野を共有するメンバーで構成される同質集団であり、そのような関わりだけに留まっていたは十分なコミュニケーション能力は育たない。また、議論を苦手とする生徒が大学や社会に出て得意に変わる可能性は低く、大学に入学してからそのような技能を育てるのは難しいため大学入学以前に経験しておく必要がある。

###### (3) アクティブラーニング型授業の特徴

表1 パラダイムの対比

教授パラダイム	学習パラダイム
教員から学生へ	学習は学生中心
知識は教員から伝達されるもの	学習を生み出すこと
	知識は構成され、創造され、獲得されるもの

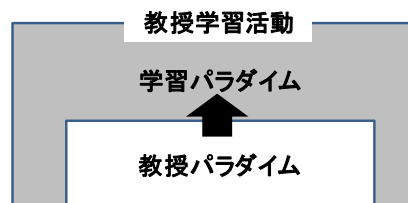


図1 教授パラダイムから学習パラダイムへと移行

表1は教授パラダイムと学習パラダイムの対比である。教授パラダイムは、「教員から学生へ」「知識は教員から伝達されるもの」を特徴とするのに対して、学習パラダイムは、「学習は学生中心」「学習を生み出すこと」「知識は構成され、創造され、獲得されるもの」を特徴としている。現場の教員は、「教えるから学ぶ」への概念の転換が必要であり、図1のように、教授パラダイムから学習パラダイムへと移行することが重要である。つまり、学習者が主体的・能動的に学ぶことができるような仕掛けをしていくことが大切である。特に、人

に聞いてもらえるプレゼンテーションの能力や他者の意見を傾聴する力を身に付けることが大切であり、生徒自身が自分たちで授業を創っていくことが理想である。

授業中、教員が果たす役割は、「科目・教科の専門家」+「ファシリテーター」である。すなわち、教師は生徒の能動的な学習を促すとともに、協働的な学びから生まれる“良質な考え”を専門家目線で拾って、教授し、深め、生徒に返していく。このような学びの中では、教員が教えていない知識や考えを身に付ける生徒も現れてくる。ただし、活動だけが強調されるような授業になり、学習内容の定着がおろそかであるという問題は避けなければならない。大切なことは、活動の盛り上がりよりも中身である。溝上先生からは、賑やかな授業が大事なのではなくて、内容が深まっているかどうか問われるとの指摘があった。

AL型授業は「①個→②協働→③個」の学習サイクルで構成される。まずは、教員が提示した課題に対して生徒個々に思考させる。その際、考えを紙に書かせることで自分の意見に責任感をもたせることができる。次に、個で考えたことを、ペアやグループなどでシェアする。自分の考えと他者の考えとの差異を認識し、自己を顧みることができる。また、同じ問いに対しても、考え方や答えが一樣ではないことを学ぶ。このような過程を経ることで、個人では思いもつかなかった意見を出すことが狙いである。最後に、再度、個人が課題に対して考える。振り返りシートを用いて、「一時間で学んだこと、気づいたこと、疑問」などを記入させることも効果的である。また、次時の授業では冒頭で小テストを行い、知識の定着の確認も行うとよい。

## 2 アクティブラーニング型授業の技法

### (1) ピアディスカッションの4原則

- |           |             |
|-----------|-------------|
| ①お互いに教え合う | ②お互いの顔・目を見る |
| ③スマイル     | ④適度にうなづく    |

溝上先生は上記の4原則の意義を強調しており、よい意見を引き出すためには、まずよい聞き手を育てることが肝要であると話す。溝上先生の授業開きは、過去の教え子の授業風景を見せるところから始まる。その写真には、笑顔で賑やかに活動している学生の講義風景が写っている。ALを推進している授業者の中でも上記の②～④の原則は特に看過されがちな項目であるが、溝上先生は導入の授業で時間をかけ、4原則の意義を徹底的に学生に語り、実践できるよう強く求めている。そうすることで、「グループでの正解率の向上」や「話がしやすい雰囲気づくり」といった効果が期待できる。

そして、ALの成功のコツはウォームアップに難しすぎる課題を与えないこと、そして楽しく達成感を持たせられるかが重要である。本研修でも「今日のお昼は何を食べましたか？」というテーマで話し合うことから始まった。

## (2) その他の工夫

- ・タイマーを使用し、制限時間を見せながら生徒に活動させる。
- ・主体的な学びを促す工夫の一つとして、授業の冒頭で、最後に1時間で学んだ内容について全体発表してもらうことを伝える。発表者の選出をランダムに行うことで、生徒は「自分が指名されるかもしれない」という緊張感から、真剣に授業に取り組み、積極的に議論に参加するようになる。
- ・協働の時間設定の工夫をし、いくつかのステップを用意し、ゴールに向かわせる。時間設定が長すぎると、議論を行った割に出てくる意見が陳腐なものであることが多い。

## 3 進捗の問題をどう克服するか？

時間を短縮する工夫としては、できるだけ板書をせず、パワーポイントやプリントを多用する。また、教材を開発したり、問を練ったりすることで、なるべく少ない問でも本質に迫れるようにする。("Less is more!")予習を前提とした授業(反転学習)を行い、家庭学習を増やすことで、授業で説明する時間を省く。

## 4 受講者の主な感想

### 具体的手法について

- ・ AL型授業について自分なりの理解、解釈が深められた。(小テスト等、知識技能の大切さ、基礎基本の大切さ、またアウトプットする大切さ等)自分なりの授業のイメージが組み立てられた。
- ・ 講義：演習＝8：2、次の時間は小テストで知識の定着化など、すぐに実践できそうな内容を教えていただきました。
- ・ 教える中身、生徒同士が出し合う中身が大切であることを再認識しました。また、向き合う姿勢や取り組む姿勢など、心の在り方や精神の大切さ。あるいは、時間の使い方、思考を凝縮、集中させることなどを教わりました。生徒が学ぶ場で従来から言われていることをしっかり位置付けて話されました。この部分は共感もし、納得もしました。実践できることもあると思いました。
- ・ 「個→協働→個」で「講義形式+アクティブ」でAL型授業ということがよく分かりました。どのような形であれ、社会の中で実践力のある発信・傾聴のできる人物を育てていくことが教育現場の使命であると感じました。
- ・ ALを実践するには、パワーポイントやワークシートを準備するなど、いろいろなことが必要だと分かった。頭の中を整理する上で、発表やまとめは大切なことなので、そこは何とかしなくてはならないと思う。個人的には、黒板に書いたことを自力でノートにまとめさせることも大切だと思うので、すべてプリントやパワーポイントにするかどうか迷うところです。

### 雰囲気づくり

- 発表が苦手な生徒を懸念していましたが、雰囲気づくりで解決できるのではと思えました。研修最後の発表時に、先生のうなずきによって、話やすく、安心して発表できたのではないのでしょうか。お手本を見せていただいた気がします。
- 人とのコミュニケーションの大切さ。目を見て話す、うなずきながら笑顔で会話することを大切にできるAL型授業でなければならないと感じました。

### その他

- 昨年度から自分自身「アクティブラーニング」っぽい授業しかやっていなかったなど痛感しました。今日の研修で自分の授業に不足していたものが明確になったので、今後の授業展開の参考にしたいと思います。
- 社会に出る前に大学で試されるので今のAL型授業が大切である。ALの評価法にとられていた。話し合いの内容や、生徒の意見の印象をもっと大事にしたい。実践したことは、黒板で説明させたい。グループ討議をもっとさせたい。時期の切れ目でやり始めようと思ったが、明日からやりたい。
- よく理解できる内容でした。ただ、いつも研修を受けて思うのは、研修の内容が「ALを行った結果こうでした。」という話が多い気がします。学生時代自身がAL型授業を経験していないため、やはり知りたいのは、それぞれの教科の特性を生かした授業の具体例です。各教科のALを行っている授業の様子を数分ずつでも見せて頂けると、実践しやすいと感じます。実際にALに取り組むためにも「まずは真似から」できるように、具体例を見せていただく機会や、研修自体をALにしていくなど工夫があるとありがたいと思います。

## 5 研修の記録



写真 1 研修の様子 I



写真 2 研修の様子 II



写真 3 溝上先生の話



写真 4 研修会のまとめの様子 I



写真 5 研修会のまとめの様子 II



写真 6 質疑応答の様子